

令和4年3月15日

那須烏山市議会議長 渋井由放 様

経済建設常任委員会委員長 滝口貴史

所管事務調査結果報告書

令和2年第4回6月定例会において本委員会が申し出を行った閉会中の継続調査の結果について、那須烏山市議会会議規則（平成17年10月那須烏山市議会規則第1号）第109条の規定により、次のとおり報告します。

- 1 調査期間 令和2年6月8日から令和4年3月15日まで
- 2 構成委員 滝口貴史、堀江清一、青木敏久、沼田邦彦、平塚英教
- 3 調査事項
 - (1) 産業振興対策に関する事項
 - (2) 都市建設に関する事項
 - (3) 上下水道に関する事項
 - (4) その他所管に属する事項

4 調査結果

- ・令和2年6月16日、低温や晩霜による梨の被害状況を把握するため、市、塩谷南那須農業振興事務所及び那須南農業協同組合の職員の説明を受けながら、南大和久地内及び中山地内の現地調査を行った。気象の影響により、令和2年3月までは平均気温が平年より高く推移し、作物の生育が平年に比べ早まった。一方、4月上旬から中旬にかけては、平均気温や最高気温が平年よりも低く推移し、霜や雹による影響を受けたことや、開花期に蜜蜂が飛ばずに受粉ができなかったこと等により着果不良が多く、特に豊水や幸水の品種への被害が大きかった。さらに、樹勢回復までに3年程度の期間を要す圃場も見受けられた。気象の変化がもたらす災害を完全に防ぐことは困難であり、人口授粉の実施や防霜ファンの設置等、効果的な対策を推進する必要があるものと感じた。
- ・令和2年7月14日、城東地内の樋門・樋管のポンプ排水動作確認のため、市職員の説明を受けながら現地調査を行った。令和元年東日本台風により本市を流れる河川が氾濫し大規模な浸水被害を受けたことから、市において防災に関する取組の一環として、城東地内の内水を那珂川に排水するための訓練を実施したもので、委員のほか、市議会議員や地元消防団、自治会関係者の方々が参加した。近年の水害は、激甚化・

頻発化しており、本市においても令和元年東日本台風を教訓とした定期的な訓練を実施するとともに、災害を風化させないためにも地域住民を含めて防災・減災対策に取り組むことの重要性を再認識した。

- ・令和3年2月10日、市職員の説明を受けながら、農業農村整備事業に関する研修会を行った。下川井地区及び熊田地区の圃場整備事業については、市や地元農業者等と協議が進められているところではあるが、下川井土地改良推進委員会や関係する自治会長から、圃場整備に関する要望書の提出があったことから、事業概要に関する説明や課題の整理、今後の展望等について研修会を実施したものである。当該地区においては、狭小な区画や排水不良の圃場が多く、農地の大区画化や汎用化を図ることで、農地の集積・集約化や農業生産の拡大が期待できる事業である。一方、整備に際しては、国や県、市から財政的な支援はあるものの、地元農業者にも多大な費用負担が伴うことから、集落営農等により数十年先を見据えた後継者育成や営農の安定化を図っていくことが必要であり課題も残されている。地元農業者が主体的に営農を継続できるよう、中長期的な計画のもと、予算を確保し関係各所と協力していくことの必要性を感じた。